



農産物の販売会に詰めかけた来場者たち

郷土の「農」秋を満喫



コスモスを摘む子どもたち



オート田植機の実演

展示や体験 八幡フェスタ

農業の祭典「八幡フェスタ『農』」が11月16日、さくらであい館で開催され、約4000人の来場者がさまざまな農業イベントを楽しみました。同フェスタは、昨年の台風

21号などで大きな被害を受けた市内農家の復興を支援することも、八幡の農業の魅力をもPRしようと、農産物生産団体や農業委員会、市などで構成する同フェスタ実行委員会が初めて企画しました。会場では、農産物品評会に出品された農産物の販売会、コスモス摘みや精米などの体験を実施。また、ドローンでの水まきやオート田植機などの実演、ICT(情報通信技術)を活用した農業の紹介も行われ、来場者たちは最新の農業に興味深そうに見入っていました。

また、八幡市産の農産物を使った豚汁やぜんざいなどもふるまわれ、来場者たちはおいしい料理に舌鼓を打ちながら、農業の魅力に触れていました。

ご両親や子どもたちと訪れた今井千香さん(38)は「子どもたちが、花を選びながらコスモスを摘んでいて、楽しそうでした。八幡市産の野菜もおいしかったです」と話していました。



横断幕を掲げて行進する参加者たち

まちの話題

「1日1円」福祉に貢献

八幡市老人クラブ連合会「愛の貯金箱」開封

「1日1円」を合言葉に八幡市老人クラブ連合会の会員たちが貯め続けた「愛の貯金箱」の開封作業が11月18日、福祉会館で行われ、約30人の会員が貯金箱を開封し、硬貨を仕分けました。

この活動は、市の福祉に役立ててもらおうと、同連合会が昭和56年から毎年実施。今年の2月に約5千個の貯金箱を会員に配布し、買い物のお釣りをコツコツ貯金してきました。

会場では、男性会員たちが次々と貯金箱を開封。まとめた硬貨を仕分け作業するテーブルの上へ運ぶと、見る見るうちに善意の山ができて、4つのグループに分かれた女性会員たちが、手際よく硬貨を1円玉とそれ以外に仕分けしていました。

市内7カ所の郵便局の協力で集計された合計金額は84万7千446円。全額が市に寄付され、福祉のために使われます。



硬貨を仕分ける会員たち

安全・安心なまち目指して

八幡市自治連合会パレード

地域住民に防犯などと呼びかける「安全・安心のまちづくり」パレードが11月23日、男山第二中学校を拠点に開催され、約1000人の参加者が地域を行進しました。

同パレードは、住民たちの防犯意識の向上を図り、地域の防犯対策と犯罪への抑止力にしようと、八幡市自治連合会が平成16年から毎年主催。市内を6地域に分け、年ごとに地域をかえて開催しています。

パレード前には記念式典が行われ、同連合会の上原昭昭会長は、パレードを継続することで、八幡市

が良くなっていく。今後も継続して頑張っていきます」とあいさつ。八幡警察署の足達功署長からは「八幡市は京都府内の全25警察署の中で犯罪減少率が第1位」と紹介され、参加者たちから拍手が起りました。また、「安全・安心のまちづくり」に貢献された7人へ感謝状が贈呈されました。

その後、参加者たちはパトカーや京都府警察平安騎馬隊の先導で地域を行進。犯罪のない八幡や「振り込め詐欺」に注意などのプラカードを掲げ、「安全・安心のまちづくり」を呼びかけていました。



ひじや みょうこ 土屋 明子さん いけだ ひろし 池田 浩士さん

今月のこの人 伝統の技で文化振興推進

土屋 明子 18歳から茶道裏千家流を始め、松花堂月舎会や文化協会茶道部会に所属。
池田 浩士 職場の人が三味線をしてきたことがきっかけで、30代から三味線を始める。文化協会員謡部会に所属。

令和元年度八幡市文化賞・スポーツ賞の「文化賞 功労賞」を受賞した土屋さんと池田さん。土屋さんは茶道、池田さんは三味線を通じて、長年、文化の普及・振興に取り組んできました。

受賞を受けて、「松花堂がある八幡に来て、茶道をさらに好きになりました。好きなことをしながら賞までいただいて感謝です」と土屋さん。

池田さんは「普段の活動を評価していただきました。三味線は奥深く、いくら弾いても納得がいくことはありません」と話します。

2人は、文化協会主催の教室や学校の授業などで子どもの指導を行っており、「八幡は文化に触れる場が多いと思います。子どもを教えるのは大変ですが、身体がもつ限り、これからも活動を続けていきます」と語り、それぞれの分野で、伝統文化を次世代へ伝え広めていきます。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体等を紹介していきます。自薦・他薦問わず、紹介希望者を募集していますので、詳しくは、市ホームページをご覧ください。か、秘書広報課へお問合せください。